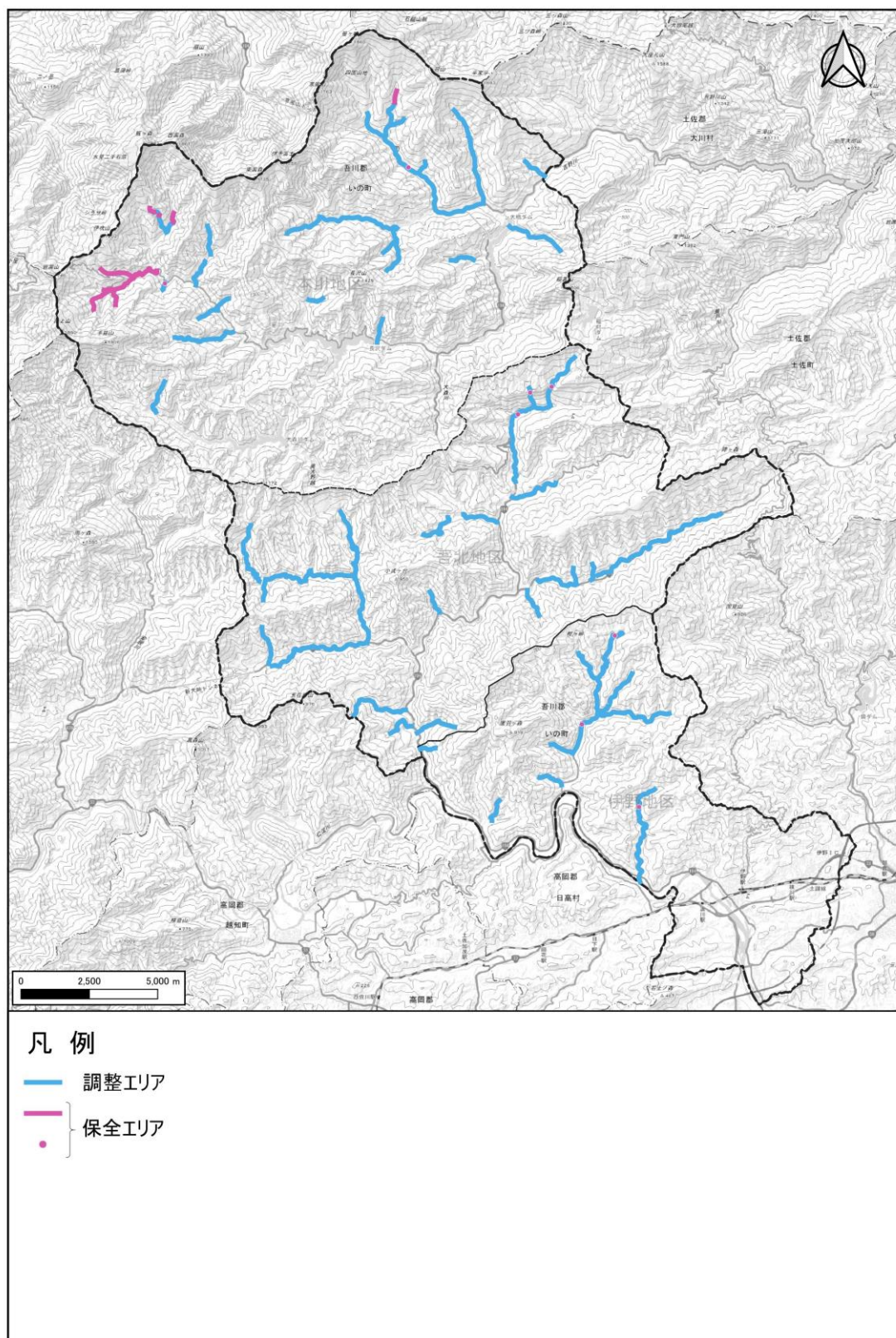




地理院タイル (<https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>) を加工して使用

図 4.5-2(6) 小水カゾーニングマップ

小水力発電

小水力発電の導入により懸念される事項を以下に、それらに対する配慮事項を表 4.6-3 に示す。

○懸念される事項

- ・発電施設の設置後の、騒音・低周波音・振動により、設置後、周辺住民とトラブルが発生する可能性がある。
- ・発電施設の故障・水没時に潤滑油等の流出による水質悪化が考えられる。
- ・魚類の遡上降下に大きな影響を与える可能性がある。
- ・取水口ならびに放水口からの魚類の迷入・吸い込みがある。
- ・魚道が設置されている堰等に設置する場合、誘導を妨害する可能性がある。
- ・樹木伐採や地形の改変等により生物・生態系に影響を及ぼすおそれがある。

表 4.6-3 小水力発電に係る環境配慮事項

項目	配慮事項
騒音・低周波音・振動	発電設備を設置する地点が住宅等の近傍に位置する場合など、地域の特性に応じて生活環境対策を検討すること。 また、地域住民に対する説明を行い、合意形成を図ること。
水質	オイルレスの設備を選定する等、油分の流出に配慮した設計にすること。
魚類	内水面漁業協同組合または魚類の専門家にヒアリングを行い、生息魚種や産卵状況、遡上降下など生息状況を把握すること。 魚類などの生息に問題が生じるような場合には、容易な代替策、回避策（水車選定、魚道等工事の難易度）が採用できる地点を選定すること。
動植物の重要な種、注目すべき生息地	有識者から希少生物が生息する可能性を指摘されている。 シコクハコネサンショウウオ、イヨシマサンショウウオ、イシヅチサンショウウオという3種のサンショウウオの他、アカザ、ナガレホトケドジョウ等の重要種の生息の可能性があるので、事前に現況把握すること。
その他	設計・施工にあたっては濁水対策、周辺環境への配慮、安全対策に留意すること。また、周辺砂防工事と重複がないか確認し、必要な調整を行うこと。